

ポプラの森 通信



2006.6.1

Aichi University Green Volunteers Society

日本沙漠緑化実践協会会長就任のごあいさつ

●●● さらなる沙漠緑化のために ●●●



日本沙漠緑化実践協会会長
藤田 佳久
(愛知大学文学部教授)

皆さんこんにちは。このたび(昨年)日本沙漠緑化実践協会の会長に就任しましたので、ここにごあいさつさせていただきます。

同協会は1991年に発足いたしました。会長は、文字通り沙漠の緑化に献身した故遠山正瑛先生です。先生は83歳の時からクブチ沙漠の恩格貝でテントに寝泊りし、ポプラによる緑化を実践されてきたことはよく知られています。その功績で江沢民主席から政府表彰され、現地に銅像や記念館まで建設、開設されています。

愛知大学の沙漠緑化はすでに10年ほどの活動になりますが、先生が存命中には、現地で必ずしも沙漠緑化をめぐるお話を聞いている筈です。それによって元気をもった方々も沢山おられるでしょう。

そうです。愛大隊も他の企業や組合、ボランティア団体、大学などととも、日本沙漠緑化協会が立案計画する緑化計画の一部に参加し、すでに一万本近くのポプラを植栽してきたのです。愛大と日本沙漠緑化実践協会とはそのような関係にあります。

そんな協会の会長に私が就任することになるとは夢にも思っておりませんでした。本人がびっくりしていますから、周辺の方々もびっくりされていることでしょう。恐らくは1993年以来、タクラマカン沙漠の沙漠と沙漠化について、人文地理学の立場から調査研究していたことが推された理由かも知れません。それにしてもそんな大役がつとまるのが不安でもあります。皆様方のご協力をお願いいたします。

この協会は、今年からさらに緑化の拡大を図るため、新たに「日中平和の森」緑化計画を始めました。この4月7日、現地政府の方々と協会の理事の方々、それに協会のボランティアの方々と集って、現地で「鍬入れ式」を行いました。現地で色々世話をし

いただいている安田氏や、中国側で受け入れをしていたごいいる王氏ももちろん参加されました。当日は汗ばむほどの快晴で、出発式としては最高の日和でした。本年の愛大隊もこの新たな緑化計画の一角を担うことになると思います。うまく愛大の森が現地に根付くことを期待しています。よろしく願いいたします。



ところで、鍬入れ式の前日には強風で黄砂が飛びました。それが次々と日本へやってきたことを帰国後知りました。現地や北京も土ぼこりで大変でした。日本のマスコミも今年は黄砂に注目したようです。今後一層黄砂はひどくなるように思います。現地での沙漠化がすすんでいるからです。その点でも中国での緑化は今や日本とも大いに関係をもつことになりました。沙漠緑化の重要性が高まります。

それに関して、愛知大学21世紀COEプログラムのシンポジウムをこの6月3日(土)に車道校舎で行います。テーマは「中国における砂漠と砂漠化」です。参加自由で無料です。私は前座をつとめますが、シンポジウムでは第一線の方々のわかりやすい発表があります。ぜひこのシンポジウムにもお出かけ下さい。

以上少々長くなりましたが、私のごあいさつさせていただきます。

愛知大学「緑の協力隊」

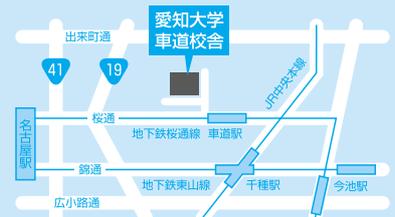
ポプラの森

愛知大学(校友課内)「ポプラの森」事務局

〒461-8641 名古屋市東区筒井 2丁目10-31

TEL 052-937-8156 FAX 052-937-8157

e-mail : kouyu@aichi-u.ac.jp



ポプラの森ニュース

2006年度第3次植林ボランティア隊派遣案内 「ポプラの森」第3次隊を派遣します！

「ポプラの森」通信第2号でお知らせしました2006年度派遣の実施要領が決定しました。2006年7月31日(月)から8月7日(月)まで7泊8日の日程で、いずれも中部国際空港発着です。隊長には今井理之現代中国学部長が内定しています。

詳細は、別紙募集要項をご参照ください。応募締め切りは6月16日(金)までとなっています。

募集要項(抜粋)

派遣地 : 中国・内蒙古自治区恩格貝クブチ沙漠

派遣期間 : 2006年7月31日(月)~8月7日(月)

募集人員 : 植林ボランティア50名(最少催行人員25名)

申込締切日 : 2006年6月16日(金) (先着順の受付とし、定員となり次第締切とします。)

旅行費用 :

参加種別	旅行代金	日本沙漠緑化実践協会 協力費
本学学生	¥130,800	不要
大人	¥171,000	(別紙募集要項参照)
子供(小学生以下)	¥156,000	不要



植林ファッション?



植林作業「穴掘り」



植林地で記念撮影

遠山正瑛先生 生誕百年記念誌 「風去来」が創刊されました

日本沙漠緑化実践協会名誉会長で2004年に97歳で逝去された遠山正瑛先生の生誕100年を記念した冊子「風去来」が刊行されました。同協会理事の田岡鈞郎氏の紹介文とあわせて掲載します。ご関心のあるかたは同協会事務局までお問い合わせください。(TEL:03-5812-0389)

風去来

遠山正瑛先生 生誕100年記念誌



本書は、遠山正瑛先生生誕100年を記念して、日本沙漠緑化実践協会からこのほど発刊された記念誌である。

本文構成は、1991年日本沙漠緑化実践協会が設立されると同時にスタートした季刊誌「さばく」創刊号から、2002年の36号に至るまでの遠山先生が執筆された諸論文が中心となっている。

遠山正瑛先生は、1906年(明治39年)山梨県に生まれ、2004年2月(平成16年2月)97歳で永眠されるまでその生涯の大半を沙漠開発・沙漠緑化活動に身を投ぜられた。その中心となる思想は、「沙漠緑化は世界平和への道」であり「協会は沙漠緑化研究を目標とする会ではなく、沙漠の緑化を実行し、沙漠を緑の大地に変え

ることを目標とする会である・・・即ち本協会は実践する会である。」と明確に述べている。

また同時に、今日の学問分野における沙漠研究は、基礎研究に主力がおかれ応用開発利用研究者が少ないこと、研究者は研究論文によってのみ評価される傾向の時代になっていることへの問題点を指摘している。

余談だが、遠山正瑛先生は、晩年、よく自己の信念に生きる愚直一徹の老人『愚公』に例えられ江沢民主席からもそう呼ばれたことがあるとのことである。

ともあれ、本書には、亡き遠山先生の沙漠緑化にたいする熱き想い、実践への気概、迫力等が余すところなく網羅され、遠山浪漫が満ち溢れている。



沙漠を見つめる遠山先生の像

(日本沙漠緑化実践協会 理事 田岡鈞郎)

